

キャラバンカーをリニューアル

前澤工業 バルブの動作をその場で実演

前澤工業は、製品の動作をその場で実演できる移動展示キャラバンカー「みずのわ号」をリニューアルした。発電機とポンプ、水槽、配管モデルを搭載し、バルブのキャビテーションや抑制のメカ

ニズム、減圧ユニットの作動原理などを実際に水を流しながら確認できる。事業体やコンサルタント、エンジニアリング企業などユーザーの元を訪問し、直接製品に触れもらえることでPRを行う。

キャラバンカーは左右に展開するウイング式の荷台を持ったトラックであり、片側ずつ

それぞれ「実流エリア」と「展示エリア」に分かれている。配管モデル等の配置された実流エリアでは、圧力解放型自動減圧ユニット「フローバルンス」、キャビテーション抑制型バタフライ弁「ジェットポート」、蓄電機能を備える「キャパシタ式緊急遮断弁」を搭載。水槽の水位に応じて自動的に弁体が開閉する様子や、キャビテーション抑制型と従来のバタフライ弁を比較して流水中の気泡がどのように変化するかなどを知ることができる。

ニーズに応じて展示する製品を入れ替えることも可能。さらに両エリアにはモニターを備え、動画による解説や製品のPRも行える。

キャラバンカーのリニューアルは15年ぶり、今回で4回目。近年はコロナ禍を鑑みてユーザーへの訪問を控えていたが、「実物を見て確かめられる」という特長には根強い要望があった。そこで老朽化した車体を刷新し、モニターの大型化や配管モデルの背景を暗色にして可視性を高めるなど改良を加えた4代目みずのわ号を製作することとなった。製品PR

のほか、実物に触れられることを生かしたユーザーの技術継承や社員研修、講習会等への活用も期待しているという。

このほど本社で開いた社内説明会に参加した宮川多正・社長は、初代キャラバンカーの稼働開始と同じ1983年の入社。「生まれ変わったみずのわ号の姿を見ることができて、『同期』としてもとても嬉しく思っている。PR媒体としてだけでなく、お客様とのコミュニケーションツールや製品の勉強の場としても活用していければ」と話した。



生まれ変わった「同期」を紹介する宮川社長



車体前面にはマエザワのエンブレムが

展示エリアには製品のカットモデルを配置して内部構造を確認できるほか、